日本共産党
愛知県議団
県政ニュース
No.80
2017年3月7日
〒460-8501名古屋市中区三の丸3-1-1
052（954）6716 fax052（961）5420
発行：日本共産党愛知県議会議員団

続 わしの議員一般質問

全学年で少人数学級の実施を

全国的にも進んでいる少人数学級を愛知県でも拡充することを求め質問しました。

共産党県議団が、一昨年調査に伺った長野県では、2002年度から30人規模学級編成を導入し、2004年度から小中の全学年で実施しています。アンケートも行っており、子どもや保護者、教師からも評価の声が上がっています。また、教育委員会も「学力」「不登校」にも有効としています。

中部地方では、長野・静岡・新潟・福井県で全学年での少人数学級が実現しています。

わしの議員はこれらの例をあげ、愛知県教育委員会として、小・中学校の少人数学級の実施をどのように評価されているのかを問いました。

次にわしの議員は、「少人数学級を願う親や教師の声は大きく広がっているが、一向に35人学級を拡充しようとしないのはなぜか。」「一刻も早く少人数学級を拡充して子ども達が豊かな学校生活を送れるようにすべきと考えるが、いかがか」と県の姿勢を質しました。

県が掲げている「あいちの教育ビジョン2020」では「少人数学級や、ティームティーチングなどによる少人数指導を推進するなど、少人数教育の充実を図ります」とあります。わしの議員は「ティームティーチングでは、1学級に2人の先生がつくが、算数や国語など特定の教科だけに限定される。全部の教科できめ細かく教えられ、子どもの抱える不安や悩み等を見ることができる少人数学級とは大きく違う」ことを指摘しました。

県は、少人数学級の効果は認識するものの「少人数指導、通級指導できめ細かく見ていく。多額の財源が必要で、国の制度拡充が不可欠」と県として拡充する方向性はありません。

わしの議員は「子ども達は社会の希望」と「国が予算をつけない中でも、今、県がすべき」と強く求めました。

危険な踏切から住民の命を守れ

国土交通省が「緊急に対策が必要な踏切」として指定した全国687か所のうち、69か所が愛知県にあります。

共産党一宮市議団が名鉄本社に、今伊勢と石刀（いわと）の危険な踏切や駅ホームの安全対策申し入れました。わしの議員が同席しました。名鉄担当者は「ここは改良すべき踏切道に指定されている。所管で話し合い、社長にも伝える」と応えています。

蟹江町のJRの踏切も視察をしました。ここは踏切内にかろうじて境界ブロックを設置してありますが、歩道は安全に通行できる幅ではなく車道を通らざるを得ません。車道も車がすれ違うのがやっとの上、トラックも多く通行し、実に危険な状態でした。

子ども達が自転車で渡る危険な踏切

パネルと掲げ質問するわしの議員

わしの議員は「国が指定した『改良すべき踏切』について、今後どのように取り組んでいくのか」また「市町村管理道路で指定された踏切について、どのように市町村を支援していくのか」問いました。

県は、「鉄道高架化を進めているが、多額の財源がいる。高架化のできないところは踏切付近でバイパスを整備する。」市町村に対しては「『地方踏切道改良協議会制度』を活用し、道路管理者と鉄道事業主との調整が円滑に進むよう支援する」と応えました。地域で声をあげ、JRや要求運動も大切です。